

# 本眞劍

倉橋惣三

一

我等が子供に向つて希望することの中、何よりも一番大切として居ることは、物事本眞劍な子供、本眞劍になれる子供になつて貰ひ度いといふことである。賢い子にもなつて貰ひ度い。敏捷な子にもなつて貰ひ度い。器用な子にもなつて貰ひ度い。しかし、それ等よりもずつと根本的なことで、比較にもならない程大切なことは本眞劍といふことである。

二

本眞劍といふことは、之れをむづかしく解釋すれば、いろいろの意味が含まれる。しかし、簡単に其の要を捉へて見れば、全心全力を擧げて一定時内唯一つのことに集注して居るといふことにな

る。之れを裏から言へば、浮氣でないことである。二た心でないことである。而して、集注するといふからには、其の深さと長さとが考へられる。一方は本眞劍の程度であつて、一方は本眞劍の繼續である。ところで、程度のない繼續もなく、繼續のない程度もない譯であるから、此の二つの問題を分けて獨立に考へることは出来ない。しかし、茲で我等の主に向つて居ることは繼續よりも、先づ程度の方である。本眞劍が長く續いて呉れることは我等の最も希望する處である。しかも、假りに長さは短くとも、兎に角く現在自分にして居ることに専念没頭して貰ひ度いのである。所謂全我を現在のことに傾注して貰ひ度いのである。即ち我等の問題は先づ集注の深さの方を多く意とする。

物事淺く上滑りしか出来ない子供を、我等は最も憂ひ悲しむのである。

### 三

集注といふことは、同時に幾つものことに心を割かぬといふことである。あれも之れもと、同時に幾つものことに氣を奪はれぬことである。但し同時に幾つものことを思ふ其の事が悪いのではない。そうすると自ら一事に淺くならざるを得ぬ處が悪いのである。廣くて深いこともあり得る。それならば差支へない理である。しかし、廣くなれば淺くなり、深くするには狭くするといふが普通であるとして見れば、一時一事を本眞劍の普通の場合と見られる。

ところで、一時一事といふのは、一時に甲を思ひ乙を思はぬといふことである。ところが、思つて居る事柄は甲だけであつても、眞の集注、眞の本眞劍といへないことがある。それは他でもない。甲を思つて居る我を、更に他の我が思つて居る時

である。此の場合、我れは二つに分れて、假令ば花を見て居る我れと、更にその風流な我を見て居る我れとになつて居る。前に、同時に甲と乙とを思ふことが一時一事でないとするならば、同時に甲と、甲を見て居る我れとを見るのも、一時一事ではない。寧ろ一層甚しい不集注であり、又本眞劍である。即ち我等の本眞劍は、同時に二つの事を思つたり、又假令一つのことでも、それを見て居る我れを、更に我れが見るといふ様な、そんな餘裕のないことである。全我を擧げて一事に傾倒し盡すことである。

### 四

本眞劍は、我等が子供に向つて望むことであると共に、子供の自然に備へて居る特性の一つである。子供の心は一時一事、一時一我が其の特性である。一寸でも面白いことがあれば、直ぐ他事一切を忘れる。興味の向ふ處、直に全我を其の中に没入して躊躇し遲疑する處がない。之れが子供の

本性である。

のみならず、成人に難くして子供に容易なる本眞劍の一つは、總ての事に、其の當然の結果の如何さへ忘れ去つて、事その事に没入する大膽さである。之れは、時に、或は屢々、子供の愚かさとして見なされる。しかしながら、一時一事、一時一我の本眞劍は、茲に到つて其の極致に達せるものと言はなければならぬのである。蓋し我等成人に於て、一事一我の没頭の本眞劍を難からしむるもの、之れを要するに結果の顧慮に他ならない。即ち、結果に就て多く顧慮するものは、現在目前の事と、而して其の結果と、常に一時二事的たらざるを得ないのである。且又、結果の顧慮は、つまり或る意味の打算であるから、事そのことに當る我ど、結果を打算する我れと二つに分れて、後の我が前の我を批評することになるのである。時一我の没頭が六かしくなる譯である。

## 五

扱て、此の子供本來の特性であるべき筈の本眞劍が、時に或る子供に於て缺けて居るのは何故に基くものであらう。しかも、それが事實上、可なり多くの子供に於てそうであるのは何故であらう我等は此の悲しむべき事實に就て先づ考へなければならぬ。

其の原因の一つは遺傳なり、後天の原因なりによる神經の障礙から來る性格の薄弱である。つまり性格の生理的基礎に於て、本眞劍になれない者である。蓋し本眞劍とは、最も積極的な精神生活である。その積極力のない程、精神の弱い子供は、實に此の上もない氣の毒なことである。若し斯ういふ子供があつたならば、營養や、睡眠や、運動や、生理的健康の方から根本的に注意して行かなければならない。けれども之れは先づ特別の場合として置かなければならない。

最も普通の原因であつて、而して、それが最も普通の原因であることが悲しいことは、廣い意味

の教育的過失である。

(次號につづく)

○子供の本眞劍を養ひ育てる爲に、我等は如何なる工夫努力をして居るか。

○子供の本性たる本眞劍を害ひ失はせるようなこととを、我等はしては居まいか。

○幼稚園といふもの、其の今日の方法と此の問題との關係は果して如何なるものであらうか。

○我等自身の本眞劍はどうであらう。

## 謹賀新年

大正七年元旦

フレーベル會